

# 教員同士で深める研究協議

研究授業の後の協議は、ブロックごとのグループ協議とした。事前に授業を見る視点を示し、気づいたことを授業中や授業後に色分けした付箋に書きこんでもらった。そして、研究協議会では低中高に分かれ授業について話し合いをした。

最初はグループ協議がなかなか盛り上がりず、改善点や疑問点の付箋が少ないという課題があったが、研究協議会を重ねるにつれて授業の改善策を話し合ったり、別の発問がなかったかを考えたりと、話し合いが深まる様子が見られた。



グループ協議の後には、各ブロックで話し合ったことを発表してもらい、発表の中から全体で話題にしたいこと・疑問などを1つ2つ取り上げ、再び全体で協議することで深めることができた。

それぞれの担当する学年や教員の視点によって出てくる意見も多様化し、授業者や参観者にとっても学びのある協議会となったと感じた。

令和2年度は職員全員が集まったの研究協議会を持つことはできなかったが、ブロックごとに協議会を行い、付箋をまとめた模造紙の写真と協議会で話し合った内容を共有し合い、お互いの授業に生かせる面を考えながら研究を進めた。今後、協議のグループを低中高混ぜたり、意図的にグループを組んだりして、更に話し合いが深まる方法を考えて行くことが課題である。



付箋を貼りながら、よりよい方法を協議。また、指導者に聞きたい疑問点も整理。

